

令和7年度 第3回和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和7年9月25日(木) 午後7時00分～午後9時00分
- 2 開催場所 京丹波町役場 和知支所 1階 小会議室
- 3 出席者 (1) 構成員 8名
井戸仁委員、河谷尚都委員、原田美希委員、才村路子委員、
大田有次委員、春田貢委員、早川公雄委員、川中愛映委員
(2) 事務局 6名
・教育委員会
岡本教育次長、四方学校教育課長、長尾総括指導主事、
野口学校教育係長
・和知小学校
梅原校長
・和知中学校
船越校長
(3) 説明者 1名
・教育委員会
東指導主事
- 4 欠席者 (1) 構成員 2名
松本和久教育長、森瀧ひろ香委員
- 5 傍聴者 1名

6 会議の大要

(1) 会長あいさつ

【会長】夜分遅くから大変申し訳ないですが、第3回ということでよろしくお願
いしたいと思います。ちょうど学校も始まりまして、すごく暑い日が続いて
おりましたが、ここ数日は急に気温が下がってきて、けどまた暑くなる
という予報でなかなか体が追いついてこないなど、巷では秋を飛び越えて
すぐに冬になるのではなんて話も出ておりますが、本当に体調には十分
気をつけないといけないなと思っております。

まず、始まってから話をしたらいいのかもしれませんが、資料も出ており
ますので少し申し上げます。前回の皆さんとディスカッションをして、そ

の中でいろんなお話ができて考えたんですが、これはこのディスカッションの内容の他に何かないのかなということでもちょっと調べてみました。後でまた事務局からご紹介していただこうと思っておりますが、岐阜県に山県学園という構想がありまして、その構想がなかなかユニークな構想で、今まで我々が考えていることだけではなくて、違う視点での取り組みがあるということもちょっと聞きまして、事務局にお願いをしましてちょっと資料を集めていただきました。また、後でビデオも見てもらえたら良いかなということで準備していただいております。これもまた新たな視点ということで、会議がさらに有意義なるようにお話いただけるかなと思っております。

早速ではございますが、私からの挨拶はこれぐらいにしまして、議事の方に進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 議事事項

ア 第2回検討委員会における主な意見について

資料－1 ①、②について、事務局から説明を行った。(四方学校教育課長説明)

資料－1 ①「和知ディスカッションボード」

資料－1 ②「第2回検討委員会における主な意見」

イ 京丹波町中学校の部活動について

資料－2 について、事務局から説明を行った。(東指導主事説明)

資料－2 「部活動拠点校方式導入アンケート結果」

ウ 新たな義務教育の仕組み「山県学園構想」について

資料－3 について、事務局から説明を行った。(東指導主事説明)

資料－3 「岐阜県山県市資料」

(3) 意見交換

出席の委員の皆様から、本日の委員会の説明を受けて意見を賜りました。概要は以下のとおり。

【委員】前回のお話を踏まえて持ち帰って考えていたときに、冒頭お話いただいた通り、やっぱり小中一貫校に対するのメリットはたくさんあって、デメリットとして出てきたものをどうやって補完できるのかなって思ったときに、中学校の連携ってあるよねってということで、前は終わったと思いません。その上で何ができるかなという中で、小中一貫校になったらどうなるのかな、というイメージのその先の和知の理想とか和知をどうしていきたいのか、その先の未来を皆さんどう描いているのかなってというのが、疑問として出てきました。その中で伝統文化のお話であったりとか、

小中連携によって子供たちに引き継げる一つの方法が見えたとかっていうことも前回お話を聞いて、大変意義があるなって思っていたので、素晴らしいなと思っています。

先ほどの山県市のお話も同じぐらいの規模感で、小中連携もされていかつ京丹波町と同じように一つの高校が町内にあるというのはロールモデルという意味ではとてもわかりやすいし、面白いなと思って見させていただきました。その中で、私がロールモデルだったりもある中で、アイデアとして出せることは何かなっていうのを前回からの中で考えてみたんですけども、やっぱり中学校の連携とかっていうのが出てくるのはなぜかっていうと一番初めにお配りいただいた資料にもありましたけど、和知地域の保護者の方のアンケートを見ても小中連携のことを評価している方が多い一方で、中学校の保護者の中には半分の方がもう統合した方が良いという意見があって、やっぱりその半分の意見にこそ何か思ってるのが隠れてるんじゃないかなと思っています。

それを見たときに、前回の話し合いの中にもありました通り、やっぱり9年間同じ集団でやっていくので、刺激が少ないんじゃないかとか、もっと子供たちの選択肢を持たせたいなどの意見があったので、そのあたりに対してこの部活動拠点校方式の流れもあるので、それも含め、もう既に全国的にスポーツ庁とか文化庁が実証事業も始められていて、部活動を地域移行していこうっていうのは、国としてもやられていることなので、とても素晴らしいなと、いろいろトライアンドエラーしながらやっていけるのかなと思っていました。

その中で、中学校の保護者の方の気持ちになったときに、子どもたちにもっといろんな刺激を与えたりとか、将来、いろいろな働き方があってこんな大人がいるんだとか。小学生が中学生を見て刺激を受けるのも良いんですけど、中学生が見るロールモデルがなかなかないっていうところが、心配されていることではないかと思っています。

そのあたりを補完できるように例えば須知高校もあるんですけど、近隣の高校との連携が何かできないかとか、町全体でキャリア教育みたいな中高が連携して高校生サポーターとして取り組むだとか、地域の企業に入ってもらって、新商品を一緒に考えるだとか。中学生に向けてもいろいろできることはあるのではないのかなと思っています。そういうことに対して、アイデアを出していくことによって、和知の中学生が先の未来をどうやって生きていきたいかみたいなことをイメージできるのではないかなとかって思っていました。

京丹波町もイノベーションラボだとか、いろいろ取り組みをされているので、取り組まれている大人を引っ張ってきて、話してもらうこともできると思っています。そんなことを考えたらやっぱり和知という地域を大

事にする、残すため地域に子どもがいてほしい。若者が戻ってきてくれる地域にするためにはっていうところを話し合っていたいと思います。

【会 長】今、委員さんがおっしゃったことは、実は僕も同じことを考えていて、実は実際にやったこともあります。須知高校では生徒版イノベーションラボに取り組んでいます。大人も当然一緒になって、役場と須知高校が一体となってやっている。実際に本年度、町の方で予算化して高校の活性化を図るような、結局ここの活性化を図るといのは、イコール小・中学校の活性化という、そういう思いですよ。それから、「中学校と高校を結ぶ方法はないかと」良いことを言ってくれはったなと思いました。実は須知高校と三つの中学校でパートナーズクール事業ということをやっています。この取り組みというのはお互いWin-Winにならないといけません。よくあるのは、上の学年が下の学年に教えるときにどうしても施すみたいな感じになってしまうと上の学年にとっては学びがないんですよ。下の学年には学びがあるんです。これでは絶対続かないと思うので、上の学年にとっても学びがある。パートナーズクールというのは一発物じゃないです。4回ぐらいあるんですけど、次、下の学年の子に聞かれたときに、僕もきちっと答えなあかんっていうのがあって、上の学年の子たちが必死になって聞くんですね。この取り組みはすごいと高校の先生からもありましたから、やっぱりキャリア教育、その視点というのものはものすごく大事だなと思います。だから今も続いています。何でこれ続いているかというところもそういうメリットもあるし、もう一つは教育委員会に入っているんで、府の教育委員会と町の教育委員会同士がやるような形になるんですよ。

この山口市学園構想は、委員さんがおっしゃったように、まさに京丹波町とよく似た感じの規模であったりロールモデルみたいな形のものをなされているなということは思います。小中一貫校だけじゃないよということをお願いがためにこれを出してもらいました。これも俎上に上げて考えてみたらどうかなってということです。これの取り組みも深く知りたいところですね。同じことをする必要はないですけど、京丹波町の形として可能性として考えるというのは自由ですから。

【事務局】合同学習という部分については、いわゆる蒲生野中学校区では下山小学校、竹野小学校、丹波ひかり小学校の合同授業というのを、今年から取り組み始めていることもあったり、これは発展になるかもしれませんが、この間、下山小学校の子どもたちが和知小学校に地域を越えて行くと、これは初めてのことなんです、合同学習ということを始めながらいろんなところへ行くということで学校自体が動き始めている部分はあります。実際に継続するかは別として手探りでやっています。

和知小学校では可能な限りオンラインも発達しているので、オンラインで交流を頻繁にはできませんが、そういうことを積極的にやっていて、大事にしています。

【会 長】なるほど。もう今やオンラインでいろんなことができるようになりましたし、そういったアプローチもあるかもしれません。対面とオンラインでは全然違いますが、例えば和知中学校と蒲生野中学校がオンタイムで交流できたりしますね。何回かに1回会うというのは当然あっても、だからいろいろ考えられるんじゃないかな。小中一貫がありきということではなくて、そういう方向性もやっぱり検討していくというのも大事だなと感じます。

【委 員】それこそアンケート結果が中学校では半々でそのあたりどういふことを保護者の方が言っておられるのか気になっています。

【委 員】中学校に関しては、やっぱり一定は保護者から部活の問題であったり、先ほど委員さんがおっしゃったように、小中学校9年間少ない母集団であり続けるのはメリットがあまりないなというところで、せめて中学校では統合もしくはそれに近い形を望まれているというのは聞いたことがあります。一定理解できるかなと思います。

子どものことを考えたら絶対それがいいと10人中10人がおっしゃると思います。ただ、保護者の人からすると、やっぱりどうしても統合された場合、おそらく和知に統合ということはありえない。やっぱり蒲生野中学校になるだろうと。そうなる送迎の問題であったり、もちろんスクールバスが出るというのが大前提だとは思いますが、やっぱり何かあったときに中学校へ行くのは遠くなるなっているのはありますか。やっぱりそれも同じように声を聞きます。

概ね、部活動拠点校方式も和知の方は賛成されてるんですけど、蒲生野や瑞穂に比べて若干少ないのはそういうところだと思います。

気持ちとしては良い取り組みだと思うんですけど、やっぱり実際問題考えたときに、送迎とか、ちょっとお迎えとなったときに、遠いなっているのが、若干ですけど数字として出ているのかなと思います。

【委 員】部活動の地域クラブ移行の他自治体の例を見ていたんですけど、舞鶴市だとか、兵庫県の加古川市などもやっていたらっしゃるんですけど、結構ポイントになってくるのは保護者の負担で、移動距離が長く、送迎負担が増大するなど負担が大きすぎるとやっぱり行かしてあげられなくなって、生徒数が減少して部活動が機能せず終わっちゃうみたいな悪い例もありました。そういうことを思うとこの山口市みたいにマイクロバスだとか公用車とかガンガン出すみたいに、町もやってくれないかなって思いました。そういうことが叶ってくると普段の学習もそうだし、部活動もそうだし、連携ができないだろうか。やってほしいなという願望を込めて言って

おきます。

- 【会 長】それがもし可能であれば、そういうことができるようになれば、町も考えてくれるんちゃうかなという気はします。いや、比較的京丹波町は教育に関して力を入れてもらってると思います。お金も含めてですけど、それは他の市を見ていると全然違いますよ。やっぱり市は大きいからかなと思うんですけど、僕らは言ってます。絶対町に行った方がいい。いや、京丹波町だけじゃなくて、町の方がやっぱりこじんまりしているから手厚いです。だから保護者の皆さんからのご意見とかも吸収しやすい。それは、町に限るとかそういうことではないんですが、よく言ってます。
- だからひょっとしたらマイクロバスが入る可能性もあるかもしれませんね。人数的にちょっと大きな自家用車でも可能かもしれませんね。
- 確か、町の公用車もそんな車でしたっけ。
- 【事務局】公用車は結構使っていただいています。現在は丹波、瑞穂、和知にそれぞれ置いているので、割と近くで利用して、使いやすくなっていると思います。
- 【委 員】土日の部活動拠点校方式ですけど、路線バスの活用って書いてありますが、土日って今路線バスは走っているんですか。
- 【事務局】いわゆる和知駅から蒲生野中学校へ京丹波町中央公民館、そこまでの部分は走っています。そして、瑞穂に関しては中京交通が走っています。なので限定的ではあります。
- 【委 員】令和8年度から部活動拠点校方式を実施するという事なんですが、実際に対象となるのは、現1年生2年生も対象ということですね。
- 【事務局】その通りです。実際、どれだけ参加されるかは蓋を開けてみないと分からないという状況ですが、可能性としてこのようなことができるという提案であります。
- 【委 員】ちょっと質問なんですけど、部活動は全員入らないといけないのでしょうか。入りたくない子も入ってるのでしょうか。
- 【事務局】一応、和知中学校は全員を基本にしています。ただ、近隣の中学校ではもう強制はしないというところは地域移行の流れもあり、増えてはきています。和知地区の場合は他に活動できる場があるかという現状あまりないので、基本は中学校で部活に入ることになっています。
- 水曜日と日曜日が部活なしで、土曜日は基本的に午前中です。大会があったりする場合は他の日を休みにして週2回ぐらい休みを入れるようになっています。
- 【委 員】運動が苦手な子も一応入っているんですね。
- 【事務局】そうですね、和知中学校にはないですが、各学校に文化部が大体1つぐらいはあって、運動が苦手な子はそちらに入るってことはあります。
- 【委 員】蒲生野中学校なども基本、全員入りましようという感じでしょうか。

- 【事務局】町内は基本、全員入りましようっていう方針ではありますが、昨今、もう絶対入りませんとなったときに強制はできないなというのはあります。
- 【委員】小学校の先生に聞いていたんですけど、6年生で14人中7人が支援学級に入っていると聞いたんですけど、支援のいる子どもたちが割と集団競技が苦手なんですよ、私の子も支援が必要だったんですけど、体育についていけなかったんですよ。それで個別指導でやってもらったこともあります。なかなか集団でやるっていうのが難しい子たちなのでどのように対応されているか気になります。
- 【事務局】今も支援学級に在籍してる子もそれぞれの部活に入ってやっています。顧問もそれぞれの部活で3人いますので、全体の練習のときにちょっと一緒に入れない子は個別です、という対応ができるのが和知中学校の良さかなとも思いますし、それで部活が嫌だからみたいなことは今のところは起きていません。
- 【委員】部活動拠点校方式の土曜日のクラブは拠点校へ行く決めてしまったらやっぱり今日は自校でみたいなことはできますか。
- 【事務局】行くと決めたら拠点校へ行くのが基本になります。今回の説明ですべて決まったというわけではなく、他の部に入りたいという希望があったら動き出してから検討することもあると思います。また、中学校でも最初に部活見学や体験入部があるので1日目から入ったら固定ということにはならないので、何回か試して本入部というようになります。
- 【会長】部活動について、いろいろご意見が出ておりますが、山県市学園構想についても、皆さんどのように感じられたのかお話しいただけますか。
- 【委員】これは実現できるものなら実現してほしいなと思って見ていました。というのも、それこそ地域の良さを残しつつ、地域を大切にしつつ、子供の教育に焦点を当てている。やっぱり私なんかもそうですけども、教育移住してきたような立場の者なので、子供の教育の場をどこにしようかと思って長野県だとか、いろんな学校にアポイントを取って行きました。そして、選んで京丹波町に来たんですけど、2拠点生活とかもよくテレビでやってる通り、元々東京で働いたりもしたんですけど、もう長野に行くだとかそういう人もどんどん増えているんですね。その中で、やっぱり京丹波町のそれぞれの地域が持つ良さもあるので、山県教育ビジョンにもありますけど各学校の違いを特色として際立たせる。そうすることによって町外の方も惹きつけることになるだろうし、そうすると結果的に町がどうなっていくとか和知を残すとかっていう中で、若者が戻ってくるだとか、私達と同世代だとか皆さん方のお子さんの世代だとかの価値観や町に対するイメージも変わったりするのではないかと私は思っています。なのでこの山県教育ビジョンは素晴らしいなというか、ロールモデルだなと思って見ていました。

【会 長】そうですね。映像でも山県市の教育長が将来的にはどうなるか分からないとおっしゃっていましたが、今現在、この取り組みなかなか面白い良いなど。それこそ岐阜県みたいに教員も小学校、中学校の両方の免許を取得するみたいなことができればと思います。

そういったことができれば小学校、中学校のギャップっていうのが少なくなると思います。よく中1ギャップとかって言いますよね。小学校と中学校の免許持ってる先生が、それこそ小学校5年生、6年生、中学校1年生、2年生とずっと続いていったらギャップは少なくなると思います。

【委 員】和知地区は、今、小中連携でやられている伝統芸能の継承などをやりつつ、その学校っていう場所に地域の方々、それこそ小中学生に限らず、みんなが集える場所というか、そうなることで地域自体が活性化すると思うので、そういう場所になったらいいのになと思います。

【事務局】今、地域学校協働活動というのがあって、うらら会さんが強かにサポートしていただいています。年間でいうとかなり回数、地域の方に入っています。人形浄瑠璃や星や月の観測でお世話になっておりますし、今後、フィールドワークで長老山に登りますがナビもさせていただきます。

ここからは構想になるんですけど、竹野小学校ではサロンをやっておられます。コロナ化も落ち着いたので和知でもそういった取り組みをやってみたいなという思いがあります。

民生児童委員さんとかにも相談を始めているという状況です。どうなるかはわかりません。

【委 員】やっぱりそれぞれの学校で良さがあって、話を聞くと和知もすごいことをやられているし、それを先生たちが移動しながら、他のところでもこれやってみようってどんどん導入されたりとか、先生で連携されてたりとかで合同学習も始まってきているので、すごい期待しています。

【委 員】山県市学園構想はすごい良い参考になるなと話を聞いていて思いました。あくまでモデルだと思うので、ここに京丹波町の良さを入れた京丹波町だけのモデルができるように作るのであれば、例えば和知の子どもたちがメインで人形浄瑠璃や和知太鼓に触れ合う機会があるんですけど、もう合併して20年が経つので、京丹波町の子どもたち全員でそれぞれの地域の文化を回って体験できるような仕組みができればすごい良い学びになると思います。

【会 長】この委員会は義務教育の小中学校でやってますが、須知高校にも来てもらって、ここに高校も加えてやれるぐらいになっても良いですよ。

とある須知高校の先生がおっしゃってたのが、京丹波町の子やったらどんな子でもうちは受け入れたらなあかんってそういう意気込みを聞いたことがあります。嬉しかったですよね。やっぱり地域の子は地域が育てるのが基本やとそのような思いで、だから京丹波町に対しての愛情じゃな

いけど、そういった思いを持たれている先生も多いです。菊作りの先生も頑張っているんなどころに行っておられます。全国1の菊を作る先生ですからね。そういった方が今、須知高校にいます。なので、そういったいろいろな教育資源といったものは結構あるとは思いますが。

それを上手く活用できるような仕組み作りができるといいなと思います。だからさっきも言っていただいたように、やっぱり全体が一つになって、良いところに出し合いながら良いところがそのままの教育財産になっていくような、そういう地域作りっていうのが大事なかなと思います。

結局、小中学校のあり方というような名前でもいろいろ議論していますが、あり方について考えていくときにはやっぱり町づくりというのが、同時にあるでしょうね。その中にやっぱり教育も当然入ってくるわけですね。

【委員】地元の須知高校に関しては、すごく良い雰囲気になってきているなと思います。昔はちょっと制服も地味で女子高生が行きたいって思うような制服じゃなかったと思います。制服で決めたらあかんんですけど。それにヤンチャな子が多いといったそういったイメージがある時代でした。でも今はすごく魅力的なチーズ作りとかヨーグルトをすごく頑張っておられて、少人数であることも私は魅力的に感じています。

ただやっぱり初めから言わしてもらってるように交通の面がネックです。もっと整えてもらったら部活動拠点校方式だって、和知駅まで行くのに今は和知中学校までさわやかライフさんにお世話になっているのを和知駅まで行ってもらえるようになるんですかね。やっぱりそこは保護者になるんですかね。私の子どもは来年、中学3年になるので引退するまでの数か月ではあるんですが、現実的ではなく厳しいです。

須知高校はイメージが私の中で変わったし、京丹波町に対するイメージも昔は何にもないところやって説明するのが難しかったけど、今は道の駅でモンブランとかで頑張っておられて、インスタもアップされていて、すごく活性化してきたなっていうのは感じています。

私もこの山県市学園構想を見てこれなら全部の学校を残して、地域の人も和知から学校がなくなってしまうやっと思って思わずに、アピールさえすれば自然と地域に伝わると思います。たぶん私も子どもがいなかったら和知小でどんなことをしているとかわからなかっただろうし、そういう学校の様々な取り組みも町外の人に話すときすごいことやねって言ってくれていて、本当に町って良いですね、市には市の良いところがあるとは思いますが、温かいなって思います。

学校で配っていただいている学校よりも私の親とかが見たでって言うてくれたりするんで、やっぱりネットでなんぼ頑張っても、私の親世代のおじいさん、おばあさんにとっては紙の媒体も大事かなって、手間はかか

りますけど必要かなって思うときもあります。

【委員】私の一番下の子には発達障害があるんですけども、須知高校へ見学に行ったときに、すごく熱心に来てください、ちゃんと面倒見ますって、大学までやりますよと言ってもらいました。ただ、当時の中学校の進路指導の先生の助言を聞いて、私らも知識がなく、情報もなかったですから、中学校の先生の言葉を鵜呑みにして、他の学校に行って4年間も頑張ってたんですけど、全然就職とかの斡旋をしてくれなくて、仕事がなかったんです。だから、中学校の進路指導もしっかりしていただかないと子どもの一生に関わるなと感じました。あの時、須知高校の先生の言葉を聞いて、須知高校に行かせておけばもう少し違った人生が送れたかもしれないと思うところもあります。なので、中学の進路指導に未だに不満を持っている部分もあって、信頼してた先生に裏切られた感じで、私たちあまり情報がない時代に生きてきたから、やっぱり子どもも親も先生を信じて疑わないんですよ。だから、もっと勉強して進路を決めてやればよかったかなと悔しい思いをしました。

数少ない子どもたちなので、みんなそれぞれ1人1人が大切なんです。一生がやっぱり幸せだったなって、生きていけるように指導してほしいと思います。

【委員】僕も子どもが中学校のときに、三者懇談があって行ったんですが、一番最初に先生から言われたのが、スポーツばかりしては良くない。勉強もしないといけないと。そんなに悪いとは思っていなかったけど、やっぱり1つのことをどこかで伸ばしてやってくれたら良いのになと思ったりもしました。

1つだけ、間違ったことを言うかもしれませんが、この部活動拠点校方式なんですけど、数字的に見ていたら和知中学校が先ほどもあったように少ない。拠点とするところを捻くれた考え方ではあるかもしれないけど、例えば、和知中学校の子どもたちはどこかに行く。そう言うから低いのではないのかなとその辺りわからないけど、拠点の置く場所がどうかというのは部活にしてもこの統合にしても同じだと思うんです。この会議で会長がおっしゃった、また町長も言ってましたけど人づくりは町づくりであるとそういうところがどう言うんですかね。一番少ないところが大きいところへ行かんとあかん。そう言いきったらいけないけど、そういうところがこの数字に出ているのではないかと思います。その辺も仕方によっては違ってくるのではないかなと思います。アンケート1つにしても、もうちょっと取り方を考えてもらったら良いのになと思います。それと、僕は人形浄瑠璃を教えていて、やっぱり子どもたちは教えると早く覚えてくれるし、成長してくれる。発表する場を必ず保障してやるってことが大事になってくるってことでいろんなところへ連れってたり、一

緒に行ったりしました。そのときもやっぱり和知独自の人形浄瑠璃があるので、他所へ行っても子どもたちは思い切って発表するわけですね。そういうところはもっと伸ばしてやりたいと思います。昔はソフトボールも教えとったんですが、そのときも和知だけでのときは良いんです。例えば、試合に他所へ行くときは道中は大騒ぎなんです。ところが他所へ行って、入場式で並んでちょっと隣の子が大きければ落ち込んでいるんです。そんなんでしたね。だから、やっぱりそういう場所を提供してやるってことは本当に必要ではないかと思います。

【会 長】子どもたちに発表の場とかね、そういうやっぱり自己肯定感を高めさせる大きなところですからね。大事ですよ。

【副会長】ちょっといいですか。次10月に第4回の会議が予定されている中で中間案答申と書いてあるんですけど、たぶん色々な意見の中で未だに皆さん揺れ動いておられると思います。その中で、中間案答申でどの辺りのラインまで出すのか。もうこんなもありますよこんなもありますよというような着地点でいいのか。なかなか皆さん揺れ動いているとちょっと思ってしまうのですが。

【会 長】今回が第3回で、予定では全5回で次の第4回が中間案答申ですね。これちょっと厳しいかもしれませぬ。

【事務局】一番最初、この会議の冒頭でもお話しさせてもらったり、委員さんからもいろんな意見がある中でこれを選択したとしたいといただいております。また、和知地域の者だけでない傍から見た視点という意味で、より和知の良さを気付くきっかけになるご意見もたくさんいただいたと思っています。

その中で、小中一貫ありきの話ではなくて、やっぱり他のあり様もあるんじゃないかっていうところの議論をしっかりとできたらいいかなって思っています。

今、副会長からおっしゃっていただいたように当初のスケジュール案では次回、中間案答申みたいな形になってまして、ワークショップをしていただいたときには、積極的なご意見とか出していただいたので、会議の持ち方も、もしかしたらもっとこういう形式の方が話しやすいとか、じゃあ、もう1回そういう場を設けてほしいとか、そういうご意見もいただきながら最終この委員会で答申っていう形ができたら一番いいのかなと思います。

その辺りを委員の皆さんからご意見をいただきたいのと、最初冒頭で申し上げた前回のワークショップのご意見は、ほぼ小中一貫に賛成といただきますか、これが一番いいんじゃないか的なご意見もあったかと思っております。そして、委員さんからあったようにデメリットをメリットに変える方法も、もうちょっと委員さんの中でもお話ができたらいいいのかなって思

っています。

そのへんの話の進め方とか、ご意見の出し方とかどういうやり方が良いのかなとか当初5回と言ってますけど、6回、7回が良いのか。ちょっとご意見いただけたらなと思うんですけど、いかがでしょうか。

【会 長】なるほど、今の話では第4回で大体まとめて云々で、最終的に5回委員会があって、終わりというそんな感じの予定があるんだということで、まだちょっとどうですかね。予定をされてる方もおられるかもしれませんが、例えばもう数回、1回でも2回でも、もう一回ワークショップをやってみるとか。そういうのがあればもっと意見が出しやすいというのであれば良いかもしれません。ちょっと山県市の事例なども出てきて、また新たな展開だなという気もしていますがどうでしょうね。日程的にはいけるんですか。

【事務局】ご協力いただけるのであれば、一定スケジュール感は持ってましたけれども、それが絶対ということではありません。いろんな意見を出し尽くしていただいて、意見がまとまれば良いんですけど。

【会 長】そうですね。やっぱりみんながある程度ここで考えて、それを元に答申ができていくべきですからね。どうですか少なくとも、もう1回ちょっとワークショップをやってみますか。

【委 員】少なくとも少人数のグループにした方が、全体で意見を出すよりも出しやすいんじゃないかなってというのは、おそらく皆さん思っておられると思います。

【会 長】そうしましたら、これを元にちょっと次回も事務局で考えていただけますか。

【事務局】そうですね。今回、山県市の事例もありましたし、またもう少し提供させていただけるような事例がありましたらそれも提供させていただきます。

【事務局】あと、学校を預かる立場というのがあるので、和知小学校からも代表として委員に来てもらってるんですが、現実的にたくさんの意見が今、集まっているというわけではないので、やっぱり中間案を出す前に、委員会でこんなことを考えているということをやっぴり保護者に聞きたいです。それはずっと言ってきたように保護者の声を丁寧に聞いてやっていきますと言っている手前、何も聞かずに中間案ができました、もうほぼほぼその案が修正できないようなことでは、それはちょっと言ってきたことと反するのでそれだけは避けたい。という思いがあります。

【会 長】中間案というようなあくまでも案ですけど、そういうのが大体出てきました、こんな雰囲気の話になってますというぐらいでも大丈夫ですかね。

【事務局】少なくともPTAの方には、やっぱりきちんと経過を説明する必要があると思います。そうしておくことによって、小学校の代表として来ていただいている委員の所に意見が来れば、その意見を委員の立場で言っていた

だけるといふそういう道筋ができるんですけど、それをやっぱり担保しておきたいです。それは中学校も同じことです。

【会 長】わかりました。次回はワークショップをして意見を出して、このような形でっていうような話を小中学校には持って帰ってもらえるようにと、そんな感じになるのかな。それが1回でできるのか2回でできるのかわかりませんが、とりあえず来月ですね、ちょっと内容を事務局に考えていただけたら嬉しいですかね。よろしくお願ひします。

【事務局】最後に、次回の会議で話し合いたい内容などはありませんか。事務局で準備させていただくこととして、もし、事例など聞きたいことがあれば、一緒にご意見いただけたらありがたいなと思うんですがどうですか。

【委 員】実際に部活動拠点校方式を採用している市町村があるとは思いますが、それを採用しているところの子どもの声というのを保護者の立場からしたら聞いてみたいなっていうのがあるので、もし、子どもたちの意見で思っていること、感じていることの何かアンケートがあっても良いですし、そういう実際の声みたいなものがあればお願ひしたいです。

【委 員】今日、来る前にいろいろ調べていて、冒頭で伝えたように、この小中学校をどうするかという先にあるのが、この地域をどうするかという理想のところだとか町づくりに繋がっているっていう中で、ちょうど令和7年9月初めに統廃合を巡り保護者や地域との合意形成に壁があるという中で、地域としてどうしていこうかみたいな資料が出てたんですね。そういったことを皆さんでシェアして、やっぱり地域に学校がある意味って何かというところも情報としてインプットすると、より議論が具体的になるのかなと思います。その中で、他中学校との連携でどんなことができるだろうという具体案だとかディスカッションできたら良いなと思います。もしあれば、キャリア教育だとかさつき進路指導についても話が出てたんですけど、進路指導も合同でできないかとか思ったので、町で須知高校だけでなく、やっぱり可能性としてみんないろんなところに行くと思うので、近隣の高校を呼んできて合同の進路ガイダンス、例えば就活のように会場へ行っているいろんな企業の説明会を聞くみたいに、そんな感じで合同進路ガイダンスとかもできないかなと思っていたので、事例があれば聞いてみたいです。

【事務局】今ある事例もいくつかあるので、それを紹介させてもらうことはできると思います。たぶん他の事例も調べればたくさんあるとは思ひます。

【委 員】でも今ある進路説明会は個人で行くから結構ハードルが高いと思ひます。学校が連れてってくれるじゃないけど、企画をして和知中学校の全体で行くみたいな、京丹波町の中学生が行くみたいな。よくギャラリーとかでやっておられるやつは私学とかもいっぱい資料をもらってきますけど、なかなかそこに行くには親も付いて行かないといけませんし、土日によく

ありますよね。なので、学校単位とか町単位とかで積極的に行ったらまた何か変わってくるのかなとか思います。今は個人の判断で参加する感じですよ。

【事務局】学校に来てもらって進路説明会を行ったことはあります。一応はあるんですけど、主に中学3年生向けっていうことが多いですよ。バス出してガレリアに行ってたこともあります。大学見学とかも過去には行ってたこともありました。

【事務局】他ございませんか。資料もできるだけ事前に共有できるような形を考えていますので、お忙しい中ですがお世話になります。

(4) その他・事務連絡・第4回委員会の日程について

次回10月22日(水) 午後7時00分
京丹波町役場本庁舎 1階 防災会議室

(5) 閉会あいさつ

【副会長】本日も長時間にわたりまして、慎重審議ありがとうございました。最後の最後にちゃぶ台をひっくり返すような話をしてしまいまして、申し訳なかったですが、でも1回目のワークショップのときには、皆さんのご意見を聞きながら自分の取り付く島を探したいなみたいなのところがあって、やっぱりちょっと雰囲気流されて安心できる部分を探したいなというような気がありました。しかし、今日は前回のワークショップの振り返りでありますとか、山鼎市の事例とか、聞かせていただいて振り返る時間になったのかなと思いますので、もうちょっと突き詰めて、皆さんとお話ししながら煮詰めたというのが本音のところであります。スケジュールは変更があるかもしれませんが、次回もよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

[閉会：21時00分]